
cruel.

齒車兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

c r u e l .

【Nコード】

N 7 5 3 4 T

【作者名】

齒車兎

【あらすじ】

とある青年の人生を変えた雨の日のオハナシ。

雨が降っていた。

ただ冷たく、暗く、夜の闇をさらに深くしていた。

その闇を雨に濡れながら歩いている青年が居た。

青年の髪は黒檀のように黒く、そして彼の着ている服も靴も手袋も、全てが黒だった。

恐らく、夜目の利かない種族は彼が歩いている事さえ気がつかないだろう。

タダ1つ、彼の手には白木蓮の杭を持っていた。

青年の名前はシヨナ・カンパニユラ。

外見こそまだ十代後半の青年だ。だが実際は500を超える月日を過ごしてきた。

そして、何時もその黒い瞳には深い闇が広がっていた。

彼は常に孤独だった。ただ訳も無く、自分の種族が恐ろしいという理由だけで忌み嫌われてきたのだ。

ゼルヴォア
彼は獣人だ。

ゼルヴォア
獣人とは種族の名称だが、さらにその中に様々な種族があるのが特徴である。

そしてシヨナは一般的に「きゅつけつき吸血鬼」と呼ばれる種族（シヨナは純血である）だった。

吸血鬼が忌み嫌われる理由。

それはその名の通り、牙をつき立て人（大抵が人間である。）の生き血を吸い、自らの新たな眷属（しかしその吸血鬼は知性が失われ、本能でしか行動しなくなる。）として迎え入れ、夜に出襲われれば

まず助からないとされるからだ。

そして、吸血鬼は自らの種族こそが孤高と主張する。

吸血鬼は雨が苦手だ。

いや、そもそも水自体が好きではないのだ。

そんな雨の中を何故彼が歩いているのか…。

彼は吸血鬼の中でも異端だった。

確かに自らの種族は孤高だと思っている吸血鬼の中で狂^{くる}ってしまった。

シヨナは、自らの種族を孤高と思えないのだ。

吸血鬼など孤高でも何でもなく、ただ人の生き血をすい、日の光を3時間浴びればただ灰となり、幾ら不死身といわれようと心臓をホワイトアツシユの杭で貫かれれば死んでしまう。

幾ら純潔といえども、子を作れない吸血鬼にどう純潔がうまれる？
吸血鬼など所詮 世界が作り出した人間と蝙蝠のかけ合わせじやないか。

…と。

シヨナは常に孤独だった。

人々からも、同族からも蔑まれてきた。

そしてシヨナが雨の中を歩いている訳。

それは森へ向かうためだ。右手に持った白木蓮の杭を握り締める。

シヨナはもう十分だと思っていた。

長い間生きた。いろいろな事をした。

もう十分だ。いや、限界だ。これ以上生きる事は苦痛でしかない。

何も望むものなど無い。時折無性に誰かに引き止めて欲しくなるのは、まだ自分が生きているから。

シヨナはそれがたまらなく嬉しかった。それと同時に苦痛だった。

そう考えている内に森へついた。

さて、そろそろ、もうこの人生ともお別れだ。

後悔や、遣り残した事などありはしない。

この残酷な運命を下した神々に会いに行こうではないか。まあ、神など信じていないのだが。

居るとすれば、面と向かって文句を言ってやろう。

何の表情もなかった彼の顔に嘲る様な笑みが浮かぶ。

これで、全てから開放される。

ザアッと雨が強くなる。

彼の右手が自らの心臓へ向かう。

彼は目を閉じた。

——彼は目を開けた。

そこは相変わらずの暗闇と、先ほどまでより強く打ち付ける雨。

そして、血潮のように赤い髪を持つ…少年？

シヨナは夜目が利くのでその少年（恐らく）の風貌を見ることが出来た。

ボサボサの赤い髪で左目を隠し、服はとても…恐らく居えが豊かではないだろう。

どちらかと言えば貧しそうな風貌。

それにしても強い力だ。吸血鬼はパワー系の種族ではないが、見たところ少年は人間。

そして少年は白木蓮の杭を彼の心臓へ貫かれる、まさにその瞬間でとめていた。

杭はシヨナの左胸で止まっている。なんと言う力だ。これが人間の子供か？

シヨナは少年が近づいてくる気配にも気がつかなかった。いや、そもそも少年は何時からそこに居た？この少年は何者だ？

「なアにしてんの、兄さん。自殺？」

「…そうだよ。邪魔しないでくれ。」

少年はニコツと人懐こそうな笑みを浮かべると、物凄い力で彼の左胸から杭を遠ざける。

シヨナがまだ力一杯握っているというのに、だ。

少年は彼の手から杭をもぎ取る。

そしてこの出会いが、彼のその後の人生を変えることとなる。

その後彼がとある大国で名前を代え、將軍となる――。
のだが、これはまた別の話――。

(後書き)

話はしよすぎた!!orz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7534t/>

cruel.

2011年10月8日21時48分発行